

巻 頭 言

2004 年度活動を振り返って

群馬大学教授（CAUA 運営委員長）

金森 吉成

昨年 11 月 5 日に開催された「CAUA 合同研究分科会」と 12 月 17 日に仙台で開催された「CAUA シンポジウム 2004 仙台」についてまとめて報告したい。

前者の基調講演として「大学における情報セキュリティマネジメントの諸問題」のタイトルで京都大学大学院助教授上原哲太郎先生からご講演いただいた。この話題は、各大学法人でも緊急の課題となっていて、時期を得た講演である。それは、昨年 4 月に国立大学が独立行政法人となり、大学の責任が国家から法人の責任へと大きく転換したことにより、大学における情報セキュリティも各法人の責任になり、各大学ではその対応を求められているからである。私の勤務する群馬大学でも情報セキュリティ担当（仮称）教官を置くことになっている。上原先生はすでにその職にあり、大学で何が課題で何をなすべきかについて明快に説明された。この講演を聴きながら大学の使命である教育・研究を遂行するためにも情報セキュリティが如何に重要になってきたかを改めて認識するとともに、教官の仕事も多様化していることを再確認した。

同様な話題がセンター運用分科会において、武蔵大学の小野成志先生から「情報セキュリティポリシーと個人情報保護の取り組み」の講演が提供された。セキュリティ侵害は、一般的に 80%が内部からと聞くと、ネットワークのバーチャルな環境に置かれると、人間はかくも簡単に変貌してしまうものであろうか、性善説などは吹き飛んでしまうように思えた。

大阪や京都で行われてきた地方のシンポジウムを今回は仙台において始めて開催することになった。仙台を中心として、ネットワークの黎明期から様々な活動が東北地方で行われてきた。今回は、CAUA 会長の林先生の求めに応じて集まって戴いた仙台、山形、福島、岩手で活発に活動されている先生方をパネルディスカッション「東北における教育情報化の今後を考える」のパネリストにお願いした。このパネルディスカッションを聞くと、先進的な教育活動を支援する、または理解する行政組織や教育機関は地域によりかなりの差があることが良くわかった。パネリストのような方々の個人的努力に頼らないで教育体制を整備し、どこの地域でも教育情報化が実現されることを切に願うばかりである。

また、東北学院大学の岩本正敏先生が引用された「仙台市教育センター情報教育推進研究委員会目標リスト部会」の資料を見るとこの目標が実現されれば現在の大学の情報リテラシー教育も違ってくるはずであり、大学も真剣に取り組む必要を感じた。